

1. 調査目的等

小学校2年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

○平成29年度・・・学校全体及び各学年50ポイント到達

3. 指標にむけての取組

① 授業の充実の推進

- 1単位時間内に必ず書く活動を位置づけた授業づくりを行う。
- 自分の考えをつくる際の書く材料を提示する授業づくりを行う。

② 課題克服プリント(NRT問題・国語科・算数科)の実施

○朝活動の時間を活用し、専科教員の入り込みによる複数体制で個の課題に応じた指導にあたる。

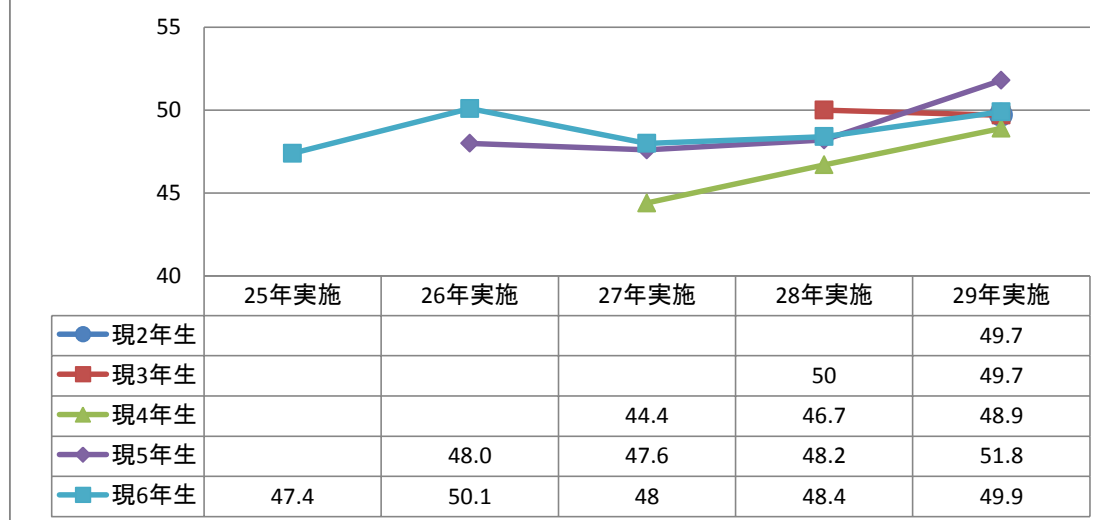
4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
本校(A)	48.3	49.7	47.4	47.6	50.1
嘉麻市(B)	49.8	50.0	50.8	50.7	51.5
(A)－(B)	-1.5	-0.3	-3.4	-3.1	-1.4
標準偏差値との差 (A)－(50)	-1.7	-0.3	-2.6	-2.4	0.1

※ 25年度 本校(A)の数値 転記ミスにより「48.3」と修正しています。

各学年の推移



5. 各学校における分析

○学校全体として、教科総合のポイントが50.1P(国語科:50.1P、算数科:50.2P)であり、全国偏差値を上回った。また、4・5・6年生は、前年度の数値より伸びた。
○算数科に比べ、国語科の数値の伸びが見られる。(前年度比:3年+1.7P、4年+3.7P、5年+3.4P、6年+3.6P)これは、昨年度から国語科を主題研究のテーマとして書く活動に取り組んできた成果と捉える。
○指標である各学年50ポイント以上到達については、5年生のみであること。また、アンダーアチーバーの児童が11%いる。これらのことから、指標にむけての取組の徹底が不十分であったこと、特に、家庭学習の未定着が要因であると考え。

6. 各学校における今後の取組

- ① わかる・喜びある授業づくり
 - 相手意識・目的意識を明確にした単元計画の立案と1単位時間内の書く活動の位置づけ
 - 課題克服プリント(朝の活動の時間)や漢字コンクール(学期に1回)・漢字検定(年1回)の実施
 - 学習の終末段階(1単位時間・単元)での振り返りの場面における評価活動の実施
- ② 学びのかまえづくり
 - 毎時間の学習規律の徹底(話を聞く態度、ノートづくり等)
 - 毎日の欠席・遅刻児童の確認と連絡体制の構築
- ③ よさを認め、「有り難う」がいえる集団づくり
 - 自尊感情を高める日々の賞賛活動の推進
 - 挨拶をはじめ、日々の場に応じた言葉の遣い方の指導
- ④ 家庭学習の習慣化
 - 「家庭学習のすすめ」の再確認し、(10×学年+10)分以上の家庭学習時間を最低確保できる程度の課題の量を提示するとともに、8割の児童が確保できたと答えるようにする。また、保護者と連携した学期ごとの家庭学習振り返り週間を設定する。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を開催し、有機的に機能させる。そのために、短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。
- ◆ 基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、「家庭学習のすすめ」を活用した指導を徹底させるとともに、「家庭学習のすすめ」を児童・生徒の全家庭に配布し、家庭への啓発を行う。